夕刊
七月十日發行
定價 一ヶ月金五十錢（郵稅金六拾五錢）
廣告料金 普通活字一行金六拾錢 記事金九拾錢（五號十二字詰一行）位置指定一行一圓増
編輯兼發行兼印刷人 鈴木哲
發行所 福島縣平町十六番地 磐城新聞合資會社
平局私書函第十二號 電話五六〇四番
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇八・五六五番

## 天氣豫報
小名濱測候所發表

今晩は北の風曇
明日は北東の風曇

## 議案オヒ加豫算にセキする件
### 或る村會議員の横顔
赤井嶽男

紐こそ觀世捻りの一じ閭に合せであるが、見るから に涼しい白地のすき透る絽の羽織を一着に及んでいとも颯爽と役場から歸つて來た新村會議員の彼氏であつた。

『どうして？役場の方は……』

折から野良仕事を切り上げて來た世にも忠順なる妻は、日笠の顧紐を解き乍ら斯う云つて夫君が前夜から張り切つて居た今日の村會の首尾を氣遣ひ訊くのであつた。

『なあに、てえしたこたあ無かつたよ』

汗の玉を吹かした夫君の鼻梁あたりには村の代議士として『完全に大任を果した』と云ふ滿幅の得意が漂つてゐた。

妻なる人は『まあ〳〵一と安心』と云つた表情で手甲姿の儘自在鍵の鐵瓶へ火を焚きつけた。

×

『いよう、羽織なんか着て今日は何事し？』

通り掛つた知り合ひに訊かれた新村議彼氏は

『なに、一寸……』

と云ひ澱んでは居るものゝ何かしら嬉しい様な顏つきに見わた。

『チャンポンでも……』

重ねてきいた。

『イヤ一寸役場へ……』

彼氏は依然得意らしかつた

『ウ、、今日は村會だつたちけな』

先刻から厭やに思はせ振りばかりして居つた彼氏は斯う圖星を指された時、その得意はまさに沸騰點に達した。

そして村會の模様を詳しくきかれる儘に今日の議案が『オイカ豫算にセキする件』で、而も二千何百圓と云ふ大金の收支に差引殘なしと云ふ鮮やかな賄ひ振りを見せた村長の手腕力量を激賞禮讃した。

×

妻なる人の氣の利か無さをたしなめ乍ら茶菓子よ座布團よと下にも置かず對手を款待した彼氏は最後に些か面羞げ乍ら、

『髯ばつかり生やしたつてシモの奴らなんてからつきし解んねえ野郎ばかりだ』

と前提して、

差引殘なしの水際立つた勘定に『このオイカ豫算にセキする件は異議無し！』と云つたら一同拍手して贊成し、みんな頭を抱へて下を向いたきり一言云ふ奴が無かつた今日の村會は、自分一人で掻き廻した——と云ふ意味を附け加へた。

×

『追加』が『オヒカ』『關する件』が『セキする件』世にも、愛嬌ある、村會議員で、彼は、あるよ。

## 兒童雜誌の罪惡（上）
桑野新作

兒童向の出版物（こゝでは雜誌を指す）も、數年前に比べて体裁だけは非常に整へられ、綺麗になつて來た。これは、何も特殊事情からなそではなく、かうしないと賣れないからであらう

賣つてモーケル爲の出版であるから、この傾向はすゝむとも停止することのないものだ。世の子供たちは否、多くの悉くの——父兄たちは、最もデカデカと廣告してゐる雜誌を、又店頭で見て最も美々しく、眼を惹く雜誌を、手に取る、或は惹きつけられる。かうした子供、大人たちには『內容』が問題でない。第一、問題にしようにも、どの雜誌をとりあげてみたところで、千變一律、選び拔く甲斐がないではないか

もう一つの大變な魅力は『おまけ』である。子供たちには理窟はない。『こつちの方がいゝんだよ』とすゝめても『だつておまけが附いてないんだもの』と云つて、附錄のある方を買つてしまふ

一、ためになる雜誌

一、おもしろい雜誌

成程出版斉側に云はしむればこの能書にいさゝかもウソは御座らぬものゝやうだ。試みに、さう云ふスローガンを掲げてゐるどの兒童雜誌でもいゝ。手に取つて、一頁一頁仔細に讀んでみ、批判してみることである

## 帝都素描
山下孝資子

明放ちたるアドバルン梅雨の空
梅雨の扉の開かれて騒音みち來る
デパートに曉けのしづけき梅雨ふれり
夏粧へる地階へ下るエレベーター
梅雨の夜はネオンをぼかし上野ねむる
夏の灯にあけし夜鳥の聲を聞く

## 傻き夢
前田豊秋

涯しなき　あゝ
涯しなき　想ひ抱きて
昔の日の　君が面影
しのびつゝ　丘にのぼれば
みだれ來る　胸のせつなさ
とめどなく　あゝ
とめどなく　涙あふれて
忘れじの　君が言の葉
ほのかにも　花と香れど
流れ來る　夢のはかなさ

**7月11日**
△鹿兒島市の別格官幣社照國神社の國旗祭△相馬野馬追千年祭（三日間）△北條早雲、三浦道寸を破る（永正一五）△佐久間象山兇手に斃る（元治元）

**7月12日**
△頼朝征夷大將軍となる△伏見の大地震桃山城破壞（慶長元）

## 仙臺竹枝
珠雲　小野務平

富強從古剱關東
百萬提封跡不空
世々名侯能樹德
忠貞節概永成風

## 講談 妖刀流轉（えうとうるてん）（136）
邑井貞吉演　佐々木今朝吉畫

### 流轉又流轉（一）

おこよが涙の聲を振り絞つて、半狂亂の體で叫び立つてゐると、その聲を聞きつけて、此方へ馳けて來る人の跫音、それは新七とおこよの身の上を氣遣ひ、十内を共に小兒を連れたおちかで、山門を入ると女の泣聲、最しやと胸を轟かせ、卵塔場へ來て見ると此有様意外の事にアッと驚いたおちかに十内

とこの隙に、おこよは突然新七の手より小刀をもぎ取り、袖に押當て胸先へ、グサとばかりに突立てようとしたから、おちかは吃驚して走りより

ち『これおこよ何をします危ない、お放し、これ十内や止めておくれ』

十内も驚いて漸々の事におこよの手から小刀を取上げましたが、おこよは胸もはりさく思ひ

こ『何卒止めず私も、若旦那様のお供をさせて下さりませ、私一人助かつて何の樂しみに生存へましよう、何卒死なして下さりませ』

と狂ほし氣に身をもんで正體もなく泣崩れる、おちかもおこよの心中を察し、又新七の切腹した心持もわかります故、あれを思ひこれを思ひ、斷腸の悲しみに暫らくは、慰める言葉さへ出ぬ位

兎も角も斯うしては居る譯にもいかぬので十内が、兩女を慰め勵まして、新七の亡骸を始末したり、土地の役人へ屆けの手續き二日ほどこの宿へ逗留して、形ばかりの野邊送り、おこよは只茫として失神のようになつて居る

此方は大島傳五郎、山奥の深林で篠つく雨の中を廣瀨軍藏と必死になつて斬合つたが、何れも劍道は無双の達者、負けず劣らず何時まで經つても、勝負のつく様子もない、疲れ果てた折も折、大雨大雷益々激しく忽ち山岳も碎くるばかりの大音響と共に兇漢兩名の目の前へ火柱が立つた

天地を貫く巨大なる火柱が、死に身に斬結ぶ兩兇漢の目の前に、忽然として現はれたと思つたのは最前よりの大雷が、電光諸共此森林中の巨木へ落雷したので、その凄まじき音響は、山岳一時に崩れたかと疑ふばかり、雷氣に打たれて流石の兩名も、アッと共場へ打倒れ氣を失つて暫らくは人事不省になつて居た。

然し最前申上げた通り、この落雷を最後にして、あとは次第に雷鳴も遠ざかり雨も小降になつて間もなく空も晴れて行く、實に變化窮まりなき山中の大自然。

漸く息を吹返した傳五郎氣がついて見ると全身は大雨の爲めにづぶ濡れとなり五體の疲勞甚しく、起上る事さへ出來ない、そうでしやう朝早くから山道を驅け廻り、その上長時間に亘つて軍藏と火の出るような劍戰を爭つたのだから、これは疲れるのが當り前。

見ると五六間向ふに軍藏が倒れてゐる、飽迄執念深き傳五郎、刀を杖に辛うじて起上ると、よろばい〳〵軍藏の傍へ近づき、卑怯にも咽喉元目がけ、ヅブリ止めを刺さうとしたその途端危機一髪に我に返つた軍藏が、ヒラリ身を交しながら手に持つた一刀で横に拂つた。

はずみは恐ろしいもので拂はれた傳五郎の仕込杖も軍藏の妖刀も此勢で二三間向ふに飛ぶ。

已にいつと矢庭に傳五郎は軍藏の身体へ馬乘に跨がり胸倉へ武者ぶりつくのを、軍藏負けじに刎ね返し、兩名泥塗れの儘上になり、下になり組んづほぐれつ猛烈に掴み合ひむしり合ふ様は、物凄い位。

その中に傳五郎が、思はずアッと異様の叫ひをあげた。

廣告

酒とマツイ おでんの榮ちやん 平市田町花ノ里 電話三三番

おでん 一平（イツペイ） 電話二六三番

平市驛前通り 高柳醫院 電三三六番

病室增築、手術室完備
産科 婦人科 醫學博士 五十嵐雄二
往診隨時 平市新川町『電話三六九番』

郷土のみやげ物は……
味よく 体裁よく 体格よく 三拍子揃つた 潮の華 一本拾錢
○尚披露の爲 七月十日より二十日まで 賣出し期間中＝二割引
販賣店を募集いたします。
平市五丁目 泉屋菓子店 電話六六八番

十日より十七日まで 福引大賣出し
金二圓也御買上每に福引券呈上（空籤なし）
景品目錄
特等—二十圓商品券 一等—銘仙反物 二等—新柄帶皮地 三等—小供仕立物 四等—御風呂敷 五等—御手富貴
御進物には三井の呉服
（かや大廉賣）（夏掛蒲團特賣）
三井呉服店 平市 電話三八・三八四番

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
万 織田材木商店へ
福島縣平市 電話平四六〇番
營業種目 建築木材一式 銘木・ベニヤ板 秋田産杉四分板 建具材・便利瓦
一變せる勉強振りを、ぜひ一度お試しを乞ふ

中古各種レール鐵管 礦山用機械器具類 製鐵原料問屋
二大製鐵會社特約店 海軍工廠御用達
銅鐵 機械 KS 井尻七三郎商店
福島縣平市鍛冶町十一 電話五二二番
御買上品精々御安く納品致ます
御拂下品は精々御高値に買受ます

時代の要求皆様の足!!
尼子タクシーへも豆タクが入りました。
御玄關から玄關へ……迅速簡便
是非御利用を……
市內…三〇錢 市外…四割引
流線型セダン、大型貸切バス
官行ー直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします。
平市二丁目 尼子自動車商會 電話六四〇番

難波醫院
內科 小兒科
入院應需 自炊の便あり
平市大町 電話五〇二番
看護婦見習、看護婦募集
醫學博士 難波睦

精神病科 腦脊髓病科 神經病科
內務省指定
福島縣立代用精神病院 郡山腦病院
郡山市外大槻村針生 電話九二五番
郡山驛より約三十丁 大槻中學より約五丁
入院隨時
院長 醫學士 金森五郎

旅舍 大幸館
東京上野驛前 下谷郵便局横通角
電話下谷(83)六七七番
私は平市出身ですから特に郷里の皆様方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄

男女學生夏服
高嶋屋の洋服
新柄背廣 レンコート
注文並ニ既製品
高島屋 平市二丁目 電話三八六番

吸入用酸素 純度99%
度量衡 モノサシ マス ハカリ
計量器 体温器 寒暖計
◎秤ノ取締・修繕・換ヘ致シマス
關內藥局 電話四〇番

診療科目
一、齒科一般 保存科、補綴科、繼續架工科 齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
中野齒科醫院
院長 日本齒科醫學士 中野惠次
日本齒科醫學士 西川誠
平市田町（松月堂向ヒ）（電話五〇九番）
（見習看護婦募集）

# 總意は明に反映して けふ嚴かに審判下る

## 平市會議員選擧結果

### 交錯する 明暗二色

過去の二旬を血みどろに闘ひぬいた五十一名の候補者に對する四千八百有權者總意の清算日!、明朗市政の根幹たる市民代表府の生れ出づる日である。文書に言論に手を變へ品を代へ凡有るSOSを發して全有權者の同情に訴へ所謂清票の獲得に狂奔した成果が愈々動かし難い現實に果してどう反映するか。得意の三十名、失意の二十一名、底にも頗る深い意義を凝むる明暗二色は今夜深更十二時に及んでくつきりと描き出された

## 鳴り物を總動員して 最後の肅正を強調

### 今早朝の緊張氣分

夜來の雨に一切の浮塵を清掃して、より肅正氣分を深はせた今十日は午前六時、いつもの牧歌的な裡にも何かしら強い張りを含んだ城山の曉鐘と時を同じうして沖天高く炸裂する煙火に先づ全有權者の心をグツと緊張せしめ、更に投票開始の七時には煙火、鐘、サイレンの鳴物を總動員した極めて豪壯な交響樂に息詰る緊張を以て之の日を待ち構へた有權者の出足を唆り、各戸には敬虔な『赤心一票』を象徴する國旗が掲げられて、人は女子供迄顔面の紅潮に一種の興奮を見せ、灰色の雲に掩うはれた重苦しい選擧氣分は投票所さして野々曳く多數有權者によつていともはつきりと展示されて行つたが午後二時からは全く霽れて絶好の選擧日和となつた

## 棄權三分五厘

### 前回も舊平分三分五厘

市議選擧の投票率如何は棄權防止の徹底振りを最も雄辯に物語るものとして其の動向を刮目されてゐたが今回の成績は

名簿登錄數四、八三一
投票數四、六六三(舊市內四四、〇七七 新市域五八六)
棄權一六九(舊市內一四二 新市域二七)
無効三三〇

で棄權は三分五厘に當つて居る因に前回の舊平分は投票數三千九百五十九票に對し棄權者百三十九票で三分五厘であつた

**前回得票 舊平町分**

(當選) 最高 一七四 最低 七五
百票臺廿二名 九十票臺五名 七十票臺四名＝次點七十二票

## 投票を待つこと何と九時間餘

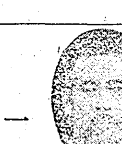
### 一番乘りの高子さん

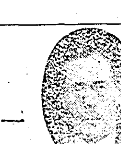
平投票所の一番乘りは例によつて長橋町野荣商の高子敎藏(三)さんで昨夜の十時かに乘り込んだと云ふんだから物凄い、その次は十二時の柴田長之介さん、三番が小野潔さんで投票開始の七時迄には約三十名が驅けつけた、先着順左の如し

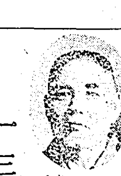
(赤組) 1長橋町高子敎藏 2研町小野潔 3四丁目新妻春治
(白組) 1仲間町大井勇 2同南波石松 3杉平須賀要吉
(紫組) 1舊城跡柴田長之介 2才槌小路根本辰尾 3田町金澤滑

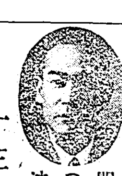
## けふぞ榮冠に笑む 吾等の平市會議員

### (新鋭古剛三十名)

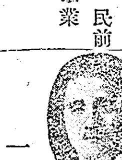

一八六票 野崎滿藏 (五七) 民前 自動車業


一五二 高橋龜松 (五七) 政前 石炭販賣


一四〇 菅本庄治 (六三) 中新 米穀商


一三八 關內正一 (四二) 政前 油商

一三七 佐藤幸太郎 (四〇) 民前 米穀商

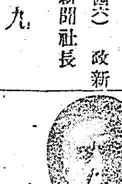

一三二 蓮沼龍輔 (四六) 政新 新聞社長

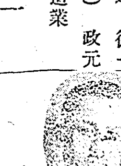
一二九 松本德一 (四八) 政元 酒造業

一二三 井上茂作 (七二) 政前 會社員

一一九 荻原義雄 (五〇) 民前 齒科醫

一一八 松崎松治 (七二) 政前 農業

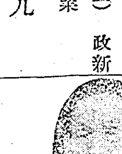

一一一 矢吹初彌 (六五) 政新 農業

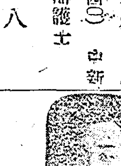

一〇九 大嶽廉 (四〇) 中新 辯護士

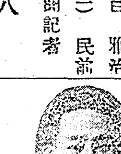
一〇八 馬目雅治 (四二) 民前 新聞記者

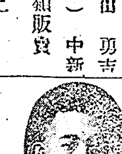
一〇八 永山勇吉 (四一) 中新 酒類販賣

一〇三 吉田五平 (六〇) 民前 著述業

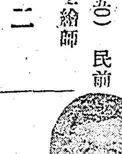

一〇三 吉田寅之輔 (五〇) 民前 上繪師

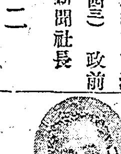

一〇二 川崎文治 (四三) 政前 新聞社長

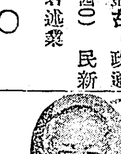

一〇二 金古政通 (四〇) 民新 著述業

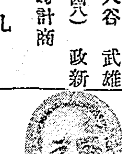

一〇〇 大谷武雄 (四八) 政新 時計商

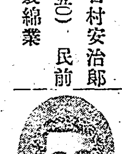
九九 吉村安治郎 (五〇) 民前 製綿業

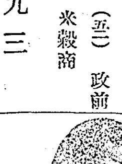

九六 根本品藏 (五二) 政前 米穀商

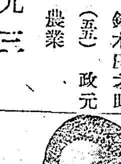

九三 鈴木庄之助 (五五) 政元 農業

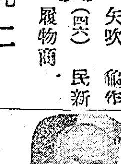

九三 矢吹龜作 (四六) 民新 履物商

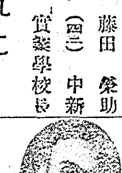

九二 藤田榮助 (四三) 中新 實業學校長

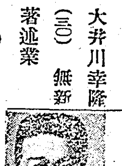

九二 大井川幸隆 (三〇) 無新 著述業


九一 鈴木庫左右 (四四) 民新 凍氷販賣


九〇 山野邊義政 (四四) 民前 辯護士


八六 鈴木光吉 (六五) 政前 農業


八六 鈴木彌太郎 (四八) 政新 自轉車業


八五 酒井清 (四四) 政前 旅館業

**次點**

八四 多田井笑次郎
八二 荒川德次郎
八一 鈴木長三郎
七八 草野七三之助
七八 松崎長太郎
七四 鈴木寶雄
七三 長谷富彌
七三 有坂銀治
七二 丹野周郎
七一 綠川喜三郎
六五 花澤久一郎
六三 伊藤儀七
六〇 佐々木龍若
五九 猪狩觀德
五九 小松茂
五一 植村喜一
四九 只野忠康
三七 新妻善吉
三七 大和田與兵衛
三四 芳賀沼源太郎
二七 新井滋造

---

△庭球部—四年田子トク 會田操 本多サダ 三年—千葉トミ子 端山タカ子 樋口道子 木村ユキ子 渡邊敏子 △籠球部—四年桑原ハツノ 北村琴 長瀬增子 三年—遠藤テルイ 高木ハヤ子 小園井端美 高田千代 飯塚里子 長瀬キミ 志賀カツヨ △排球部—四年正木千鶴子 春川チカ 北川テル子 渡邊タミイ 鯨岡トミ子 鈴木トヨ子 大泉經子 三年—三森キヨ 桑田隆子 立花愛子 榊原菊江 佐川イク 菊地ツネ

**村田視學來平**

村田縣視學は九日來平、佐賀學舍、磐城青年學校、第二校を、十日は平商、藤田兩女學校、第一校を視察

## 入山各係對抗陸上競技會

入山坑務所の各係對抗陸上競技會は十一日の處都合で十八日に延期され採炭、運轉、事務各軍は目下練習に汗だくだ、當日の競技種目左の如し

百米 二百米 四百米 八百米 千五百米 五千米 砲丸投 圓盤投 ハンマー 棒高跳 巾跳 高跳 三段跳 八百米リレー

## 職業指導研究幹事會

既報—石城職業指導研究會は十二日午前十時から平第一校に開かれ市內三校、內鄕、神谷、湯本の各校主任出席、平第一湯本兩小學校の提出事項左の如し

(平第一)尋常五年以上の學年に對し職業課を毎週一時間以上正科の時間に繰入れられたし、講習會開催、視察員派遣

(湯本)高等科に於て成るべく職業課特設、職業指導視察、職業科敎授要目制定

## 貨物商業組合 愈よ認可さる

小名濱、江名、豐間、湯本の貨物自動車營業者の親睦を圖るを目的に結成された保證責任石城片寄貨物運輸營業組合は八日認可された理事長小名濱町長瀬陽平營業者二十二名 出資額六、七二〇圓(一口二十圓)第一回拂込一、六八〇圓(一口五圓)保證金額六、七二〇(一口二十圓)

今後の事業の主なるもの左の如し

仕入、修繕、工場車庫設置、研究調査、請負、集金、貸付、貯金

## 夏の魅惑地 永崎海岸

### 浴場ノ新陣容整備

小名濱からバスで十分、平からの片濱廻りも夏のドライブとして絶好、ハイヤーの窓に展開する渺茫涯し無い青と綠の魅惑地、それそ九三七年の夏の幽芳、永崎海岸である。都の人の避暑地として或は郡山中學指定海水浴場として隱れた海水浴場ではあつたが愈々永崎海岸では大衆海水浴場として一〇〇パーセント、名乘りを擧げた夏の涼地永崎海岸こそ行かねばならぬ夏の極樂境ではある。早くも入り込む浴客に汗だくの無料脫衣場のサービスガール、此處暫らくは海の銀座とある

## 喰ふか喰はれるか?

### タニシと蛇の闘爭 內鄕村泉水の珍場面

田螺と蛇——この珍らしい闘爭が內鄕村で展開された

一昨八日の午前四時半頃、內鄕村字御殿磐城炭礦社宅附近にある津田商店裏手の泉水の畔で嬰兒の拳程もない小さい田螺と尺餘の小蛇(俗稱ズンムグリ)とが頻りに爭つてゐるのを附近のものが見つけた

戰端は蛇が田螺の觸手を嚙まうとしたのに發したらしくかへつて田螺の爲直徑約四分位の蓋に強く口もとを挾まれて首の自由を失ひ頻りに尻尾で田螺を卷き込まふと焦るがそれも出來ず、のたうち廻つてゐたもの

喰ふか?喰はれるか?この珍らしい闘爭に我も〳〵と押しかけた見物人で附近は時ならぬ大賑ひを見せたが夕刻頃迄に蛇はすつかりグロッキーとなつて闘爭力を失ひ結局田螺に凱歌があがつた。珍らしい場面だけに涼み台の話題を賑はしてゐる

## 磐陽野球決勝戰

### 磐中球場の熱戰譜

東朝平通信部後援平市制記念磐陽野球大會は愈よ十一日準決勝以後を磐中球場で擧行するが組合せ審判員左の如し

午前八時 平鐵——遞女 (熊 佐藤武 石坂 水竹)
午前十一時 高月——磐炭 (佐藤信 石坂 佐藤武)
決勝 午後三時 (佐藤武 熊 水竹)

## 磐女對日立 けふ球技試合

磐女對日立の球技試合は十一日午前九時から磐女校グラウンドで擧行、種目は庭球、籠球、排球で磐女選手左の如し

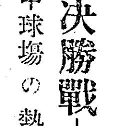
## 平署送致 件數增加

平署に於ける今年上半期中の送致件數は合計四百二十三件で昨年同期の三百七十件に比し五十二件の增加である、昨今兩年の對比左の如し

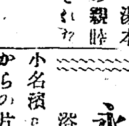
| 月 | 今年 | 昨年 |
|---|---|---|
| 一 | 七〇 | 六五 |
| 二 | 五四 | 二二 |
| 三 | 五八 | 一〇七 |
| 四 | 五六 | 五四 |
| 五 | 一一四 | 六五 |
| 六 | 七一 | 五八 |

---

諸判定廳舘 東京市本鄕區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠舘


新曆七月十日 日曜　舊六月四日　己亥　先負　定　昴宿

▲一白 諸事協力して行ふ時は衰運を吉に向はしむ▲二黑 一度にて遂せぬ事も二度三度と繰返せば吉▲三碧 傍路に外れず正道に足を踏むれば希望なる▲四綠 終日の勞苦も樂しき夕げに迎へらるゝ吉日▲五黃 福分はあれどもしやしに流れて後の妨げあり▲六白 心を勵まし奮闘すれば援助も加はり功多し▲七赤 幸運に惠まれたれど物事に迷多きは效薄し▲八白 勢のみ烈しくして一向功績の揚らぬ不安日▲九紫 誘惑におちいりて進退度を失ひ悲樂に暮るゝ日


新曆七月十一日 月曜　舊六月五日　庚子　佛滅　執　畢宿

▲一白 日上の同情を失はざれば衰運も心配なき日▲二黑 運氣最良の日萬事の計畵成功の喜びを見る▲三碧 我意をほしいまゝにすれば勞苦を增すことあり注意▲四綠 業務榮え家道治り幸福を謳歌する吉運の日▲五黃 野中に泉を得し如く苦熱に蘇生の思ひあり▲六白 運勢甚だ宜しからず日常の業務にも衰あり▲七赤 態度愼重なれば大難も小難にて濟むべき日▲八白 沈着と勇氣とを以て難關を突破する事を得▲九紫 ばらにとげあり美しとて手を出すな 移輝 赤岡

十一日 (小名濱測候所發表)
滿潮 前五、三〇 後七、〇〇
干潮 前〇、二〇

十二日
滿潮 前六、〇五 後七、一〇
干潮 前〇、三〇 後一、〇〇

父善之進硬腦膜出血ニテ七月八日午前四時二十分死去致シ候間御通知申上候
追テ葬儀ハ十三日午後二時自宅出宅大寶寺ニ於テ執行可致候
昭和十二年七月十日
平市搖槌小路二十四番地
男 瀬尾善之
兄 瀬尾孝之進
親戚總代 市原卯太郎
青沼鋒太郎

廣告

初夏の氣分と行屆いたルーム お出を お待ち致します。

珈琲とグリル 御食事 バッカス 電七〇二

女店員募集 全部給料制度 品位良き方を望む 經驗無き方も良し

賢識新藥 ネオネプロン 一・五〇 三・〇〇 醫師、藥劑師の奬勵せる超特効劑 平市代理店 山野邊藥局

平市南町 根本産婦人科 電三一四

平市新川町 北川外科 電四六四

重田眼科 平市田町